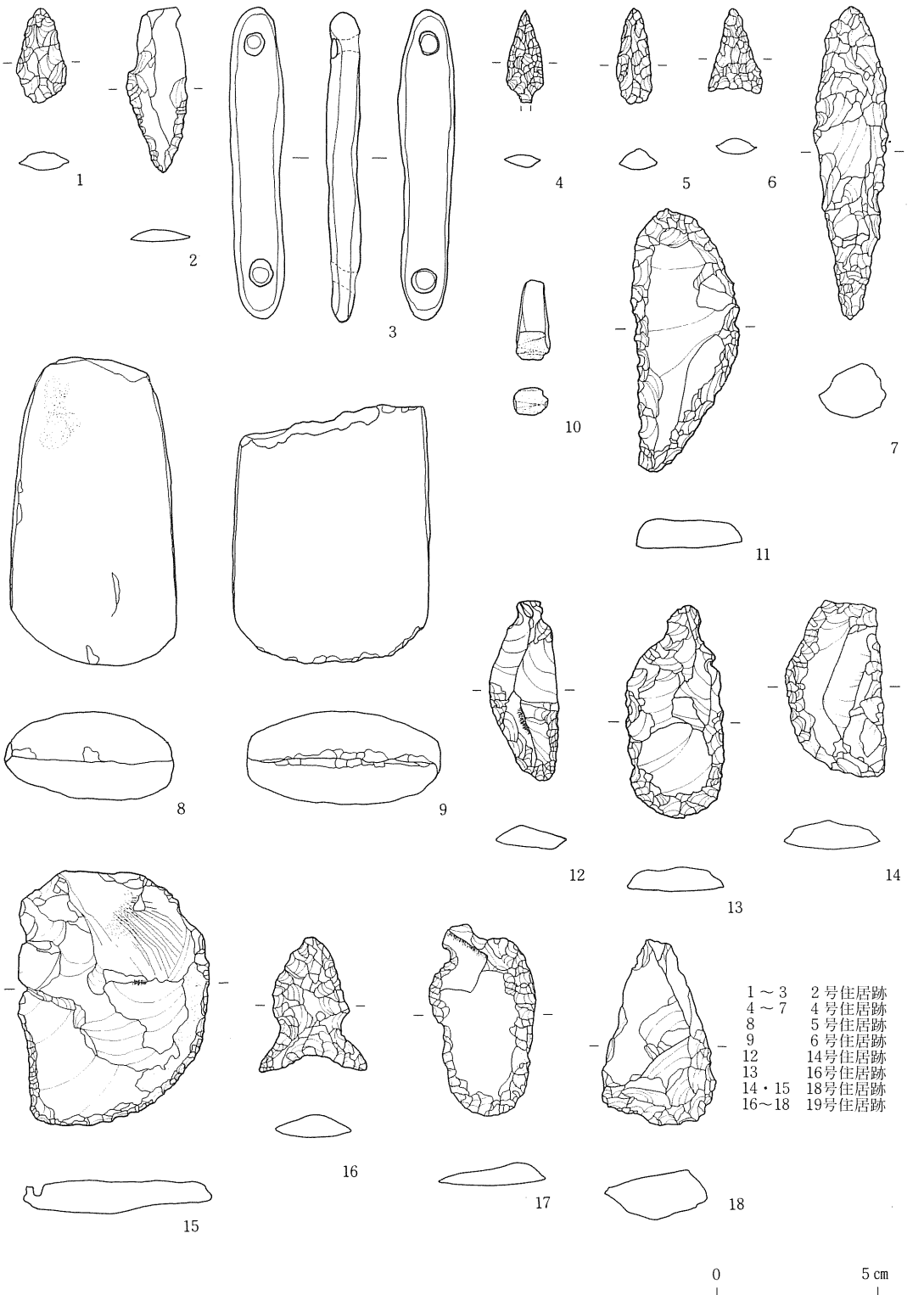
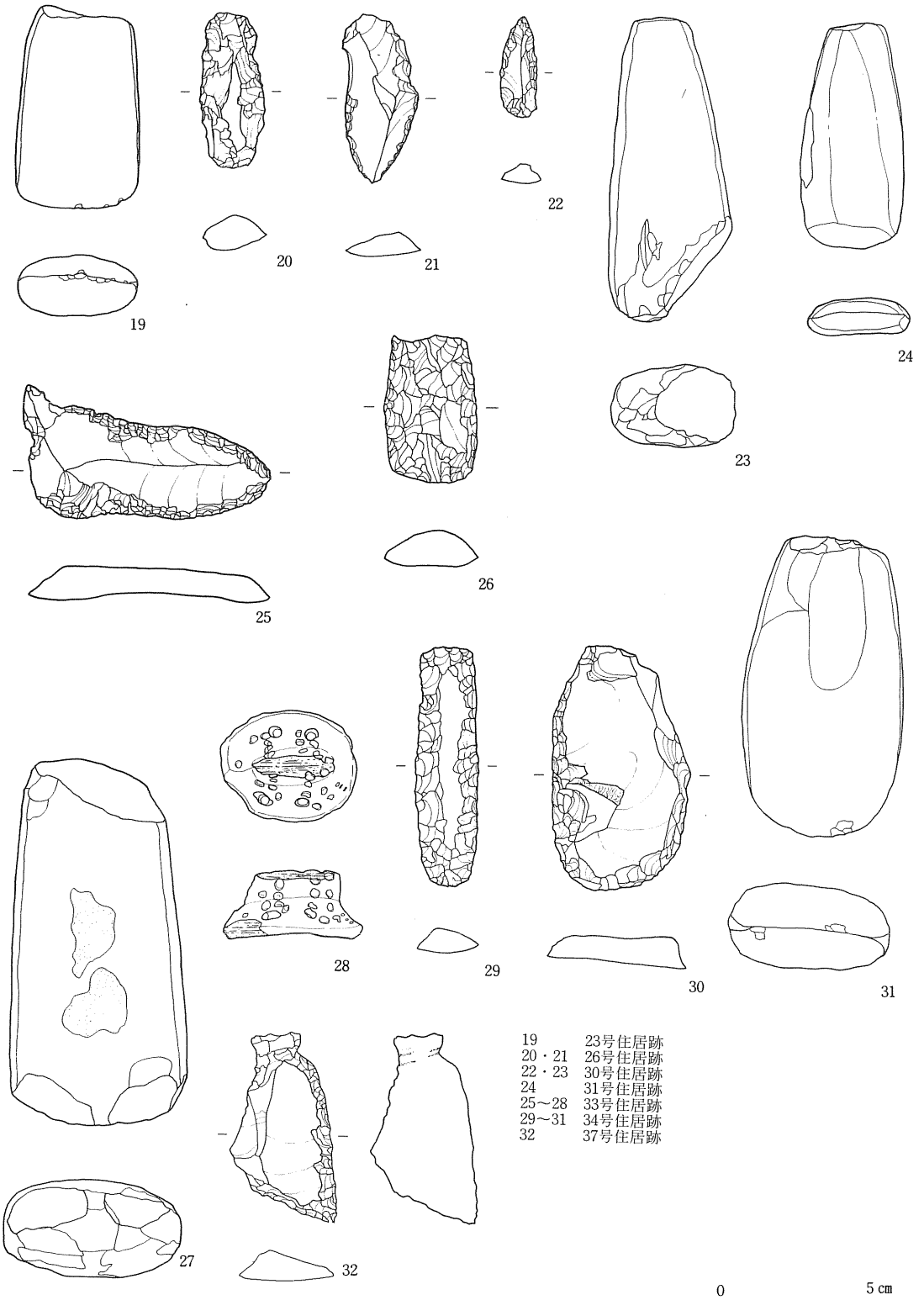
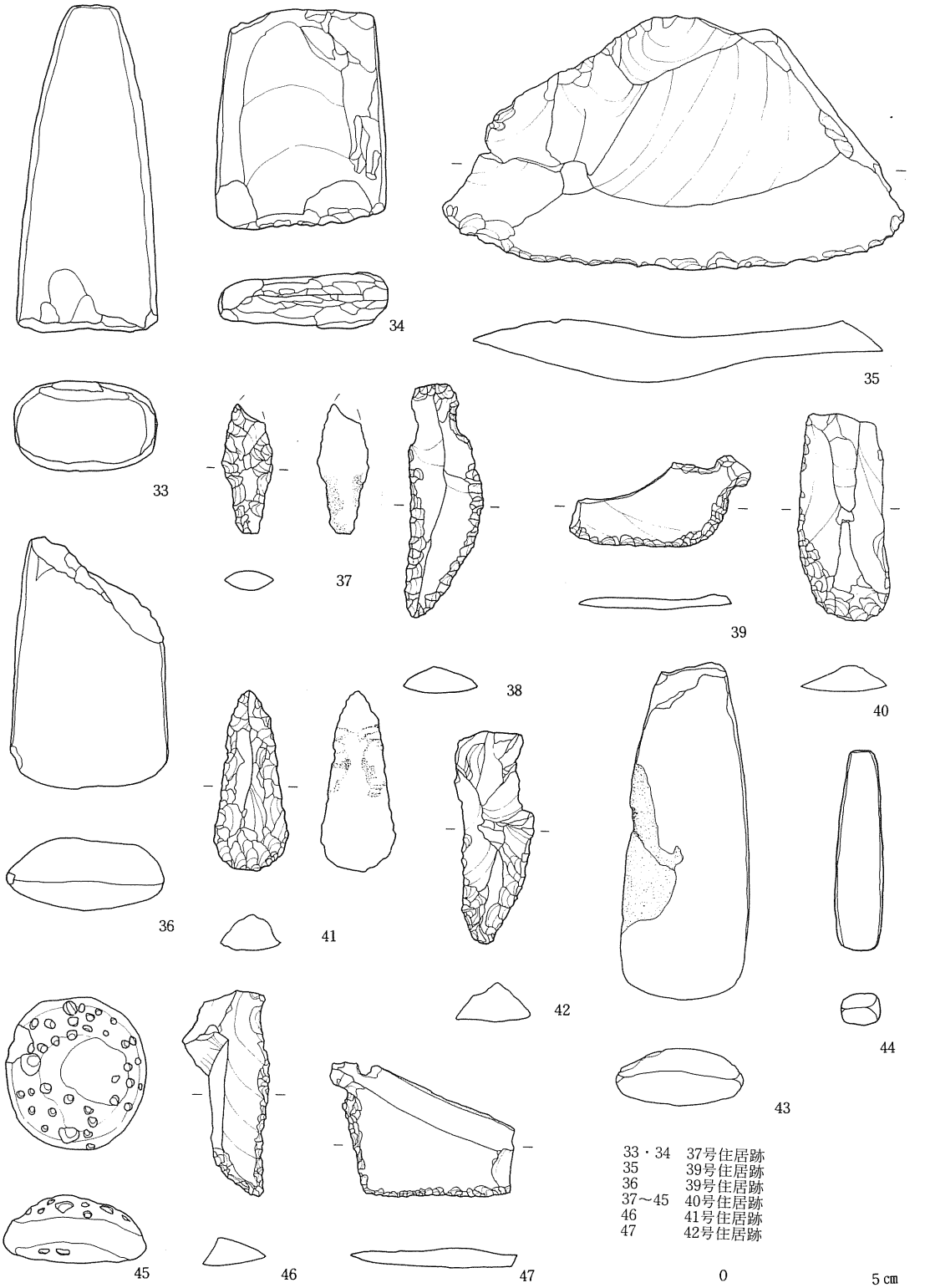


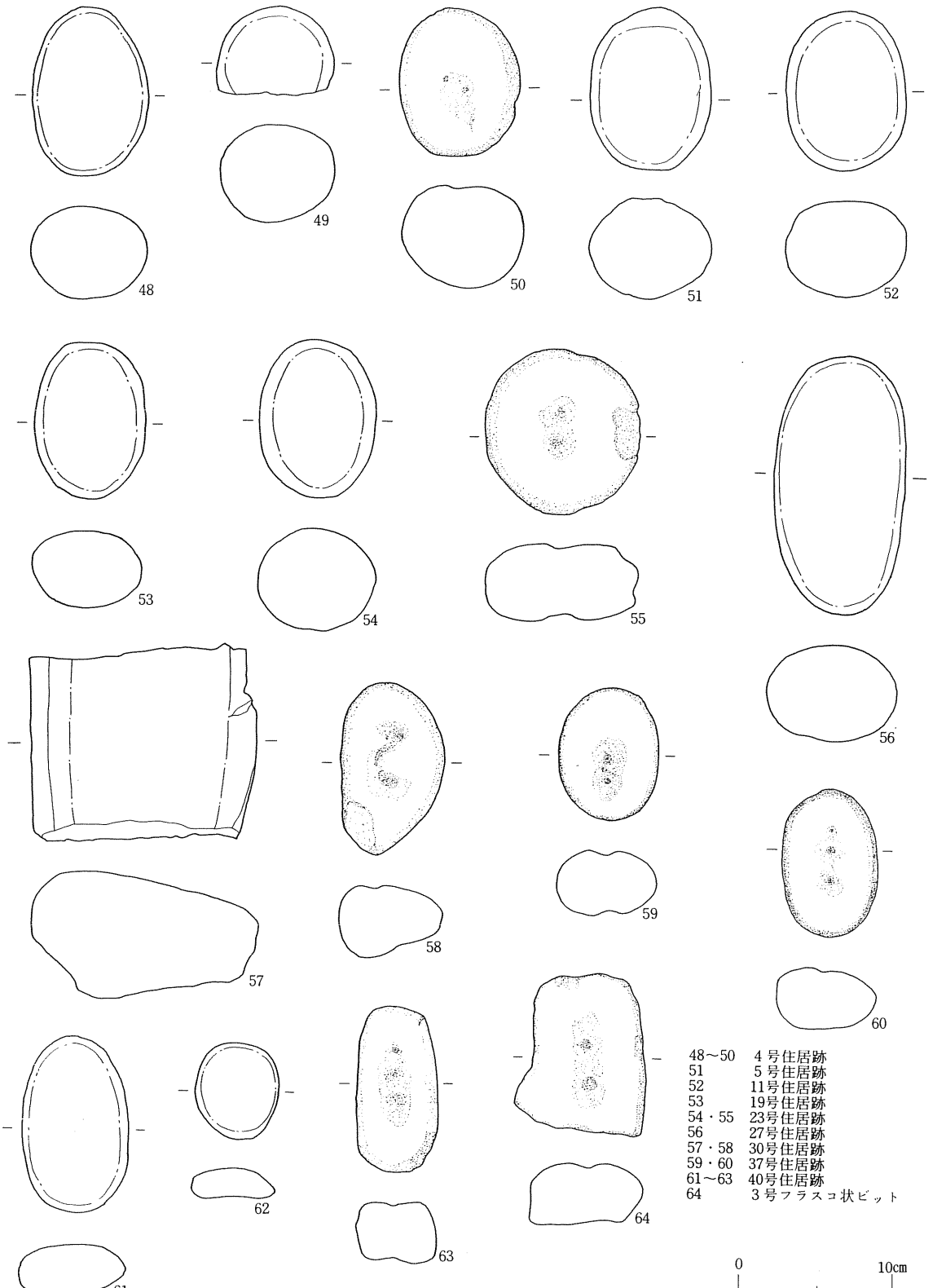

第77図　遺構内出土石器・石製品



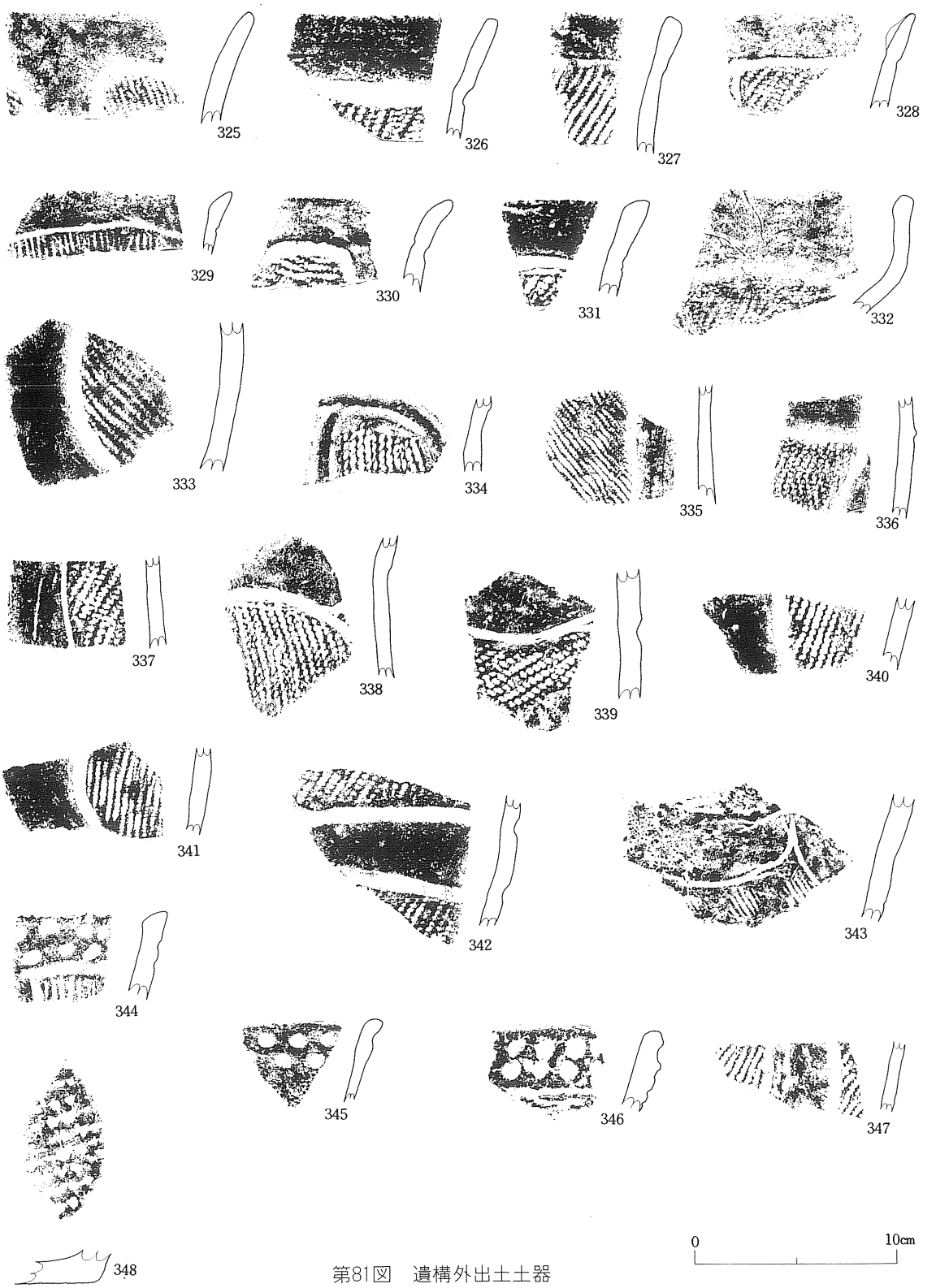

第78図　遺構内出土石器・土製品



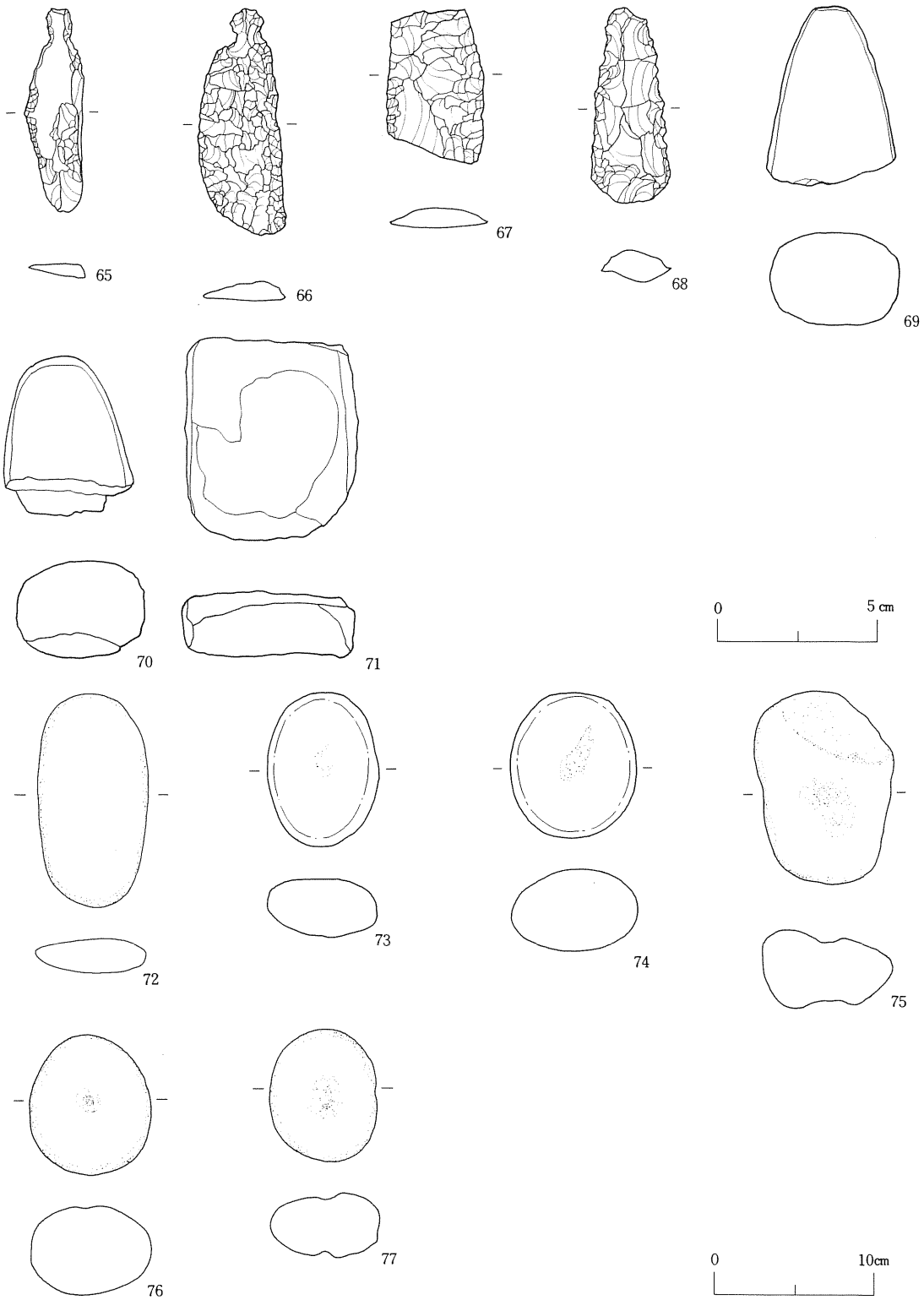

第79図　遺構内出土石器・土製品




第80図　遺構内出土石器




第81図　遺構外出土土器




第82図　遺構外出土石器

沈線区画の磨消帯で文様が施されている。344 ～ 347 は磨消帯、沈線内に刺突文が施されている。

**石器**（第 82 図）

65 ・ 66 は縦型石匙、67 は石匙の破片と思われる。68 はヘラ状石器、69 ～ 71 は磨製石斧である。71 は磨滅、風化が著しい。72 ・ 73 は磨石、74 ～ 77 はくぼみ石で、75 ・ 77 は両面使用のものである。

**平安時代**

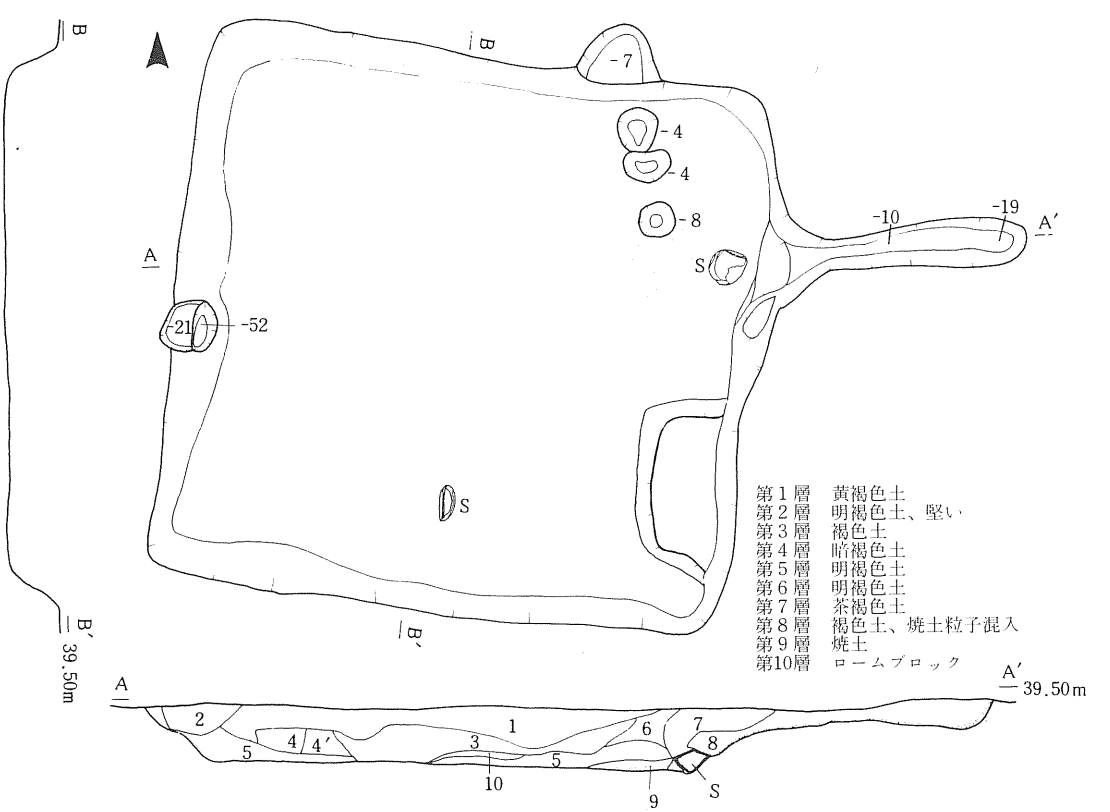
**遺構と遺物**

本遺跡から、平安時代の遺構として竪穴住居跡 3 軒、土壙11基が検出された。

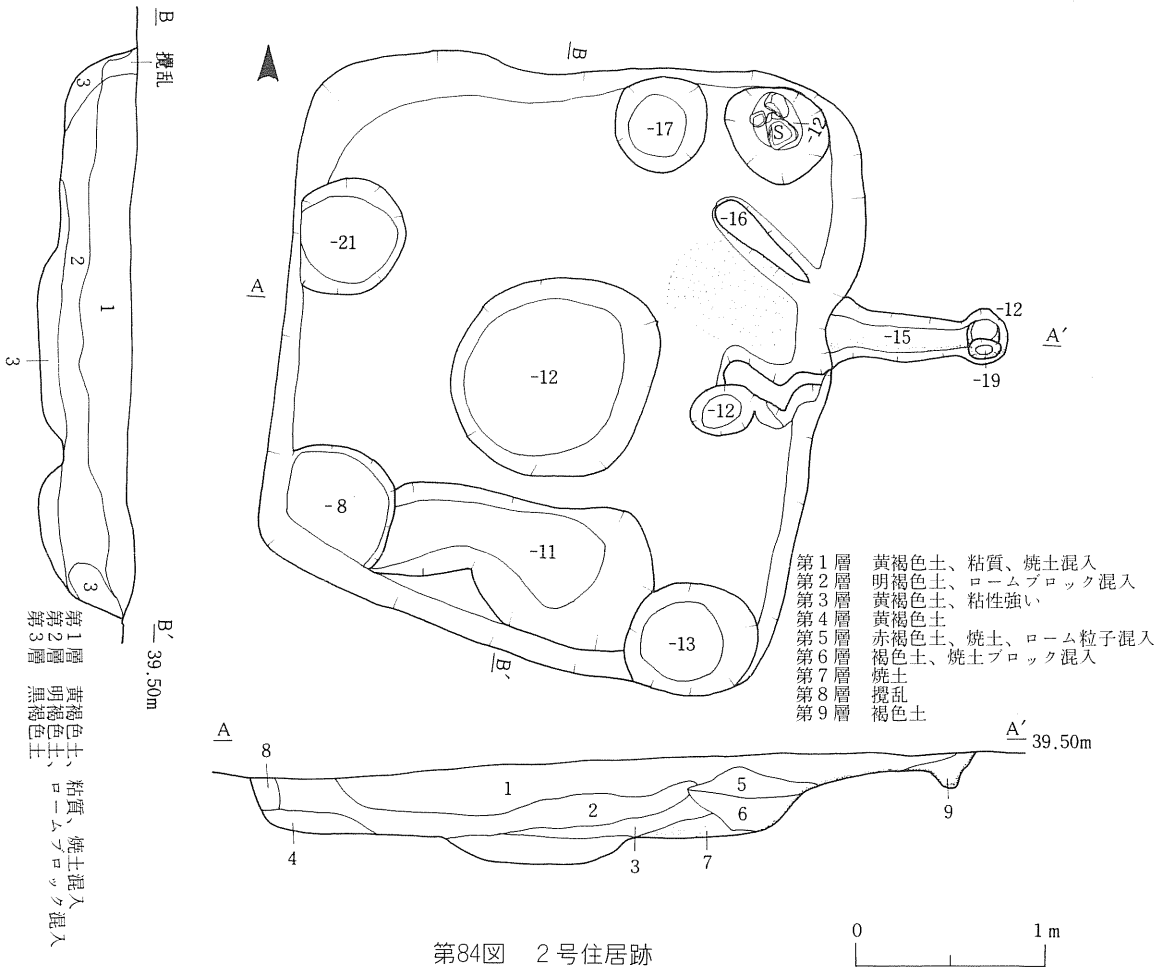
**1 号住居跡**（第 83 図）

調査区の南部東端で検出された。

プランは径 3.1 m の方形を呈する。確認面からの深さは 35 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは北東部に 5 個検出されているが主柱穴は不明である。カマドは東壁北寄りに付設されている。両袖部は壊れて不明である。焚口、燃焼部は火熱を受けて焼土が厚く、堅く堆積している。燃焼部には河原石を置いて支脚としている。煙道は長さ 1.2 m、巾 20 ～ 25 cm、深さ 8 ～ 15 cmであり、底部に




第83図　1 号住居跡




第84図　2号住居跡

はうすく焼土が認められる。東壁南側は一段高くテラス状を呈し、堅く踏み固められている。床面は平坦で堅く良好である。

**出土遺物**

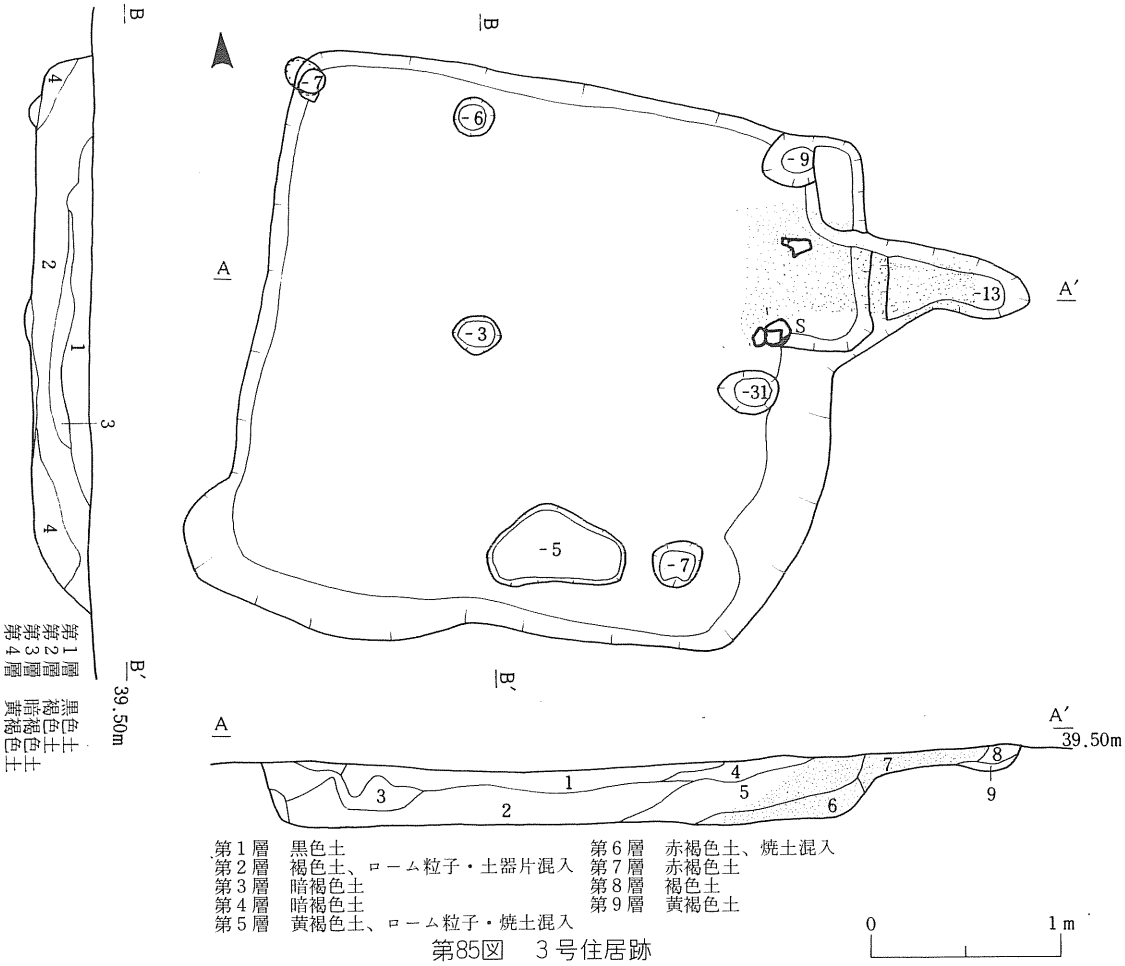
**土器**（第86図）

1～4は覆土から出土した。1は回転糸切り無調整の赤褐色土器坏である。2～4は須恵器坏で、2、3は回転糸切り無調整、4は回転ヘラ切り無調整である。

**2号住居跡**（第84図）

調査区の南部東端で検出された。

プランは長軸3.1 m、短軸2.9 mのほぼ方形を呈する。確認面からの深さは約40 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは壁下、コーナー部に6個検出されている。中央部の円形の大きなピットは本住居跡よりも古いもので、貼り床が施されている。カマドは東壁北寄りに付設されている。両袖は粘土組であるが一部壊れている。焚口、燃焼部は火熱を受け焼土が厚く、堅く堆積している。煙道は長さ95 cm、巾35 cm、深さ10 cmで先端にピットが掘り込まれている。底部には炭化物、焼土が認められる。床面は平坦で堅く良好である。




第85図　3号住居跡

**出土遺物**

**土器**（第86図）

5は北東コーナー部ピット内、6・7は埋土から出土した。5・6は赤褐色土器坏で回転糸切り無調整である。7は回転糸切り無調整の須恵器坏である。

**3号住居跡**（第85図）

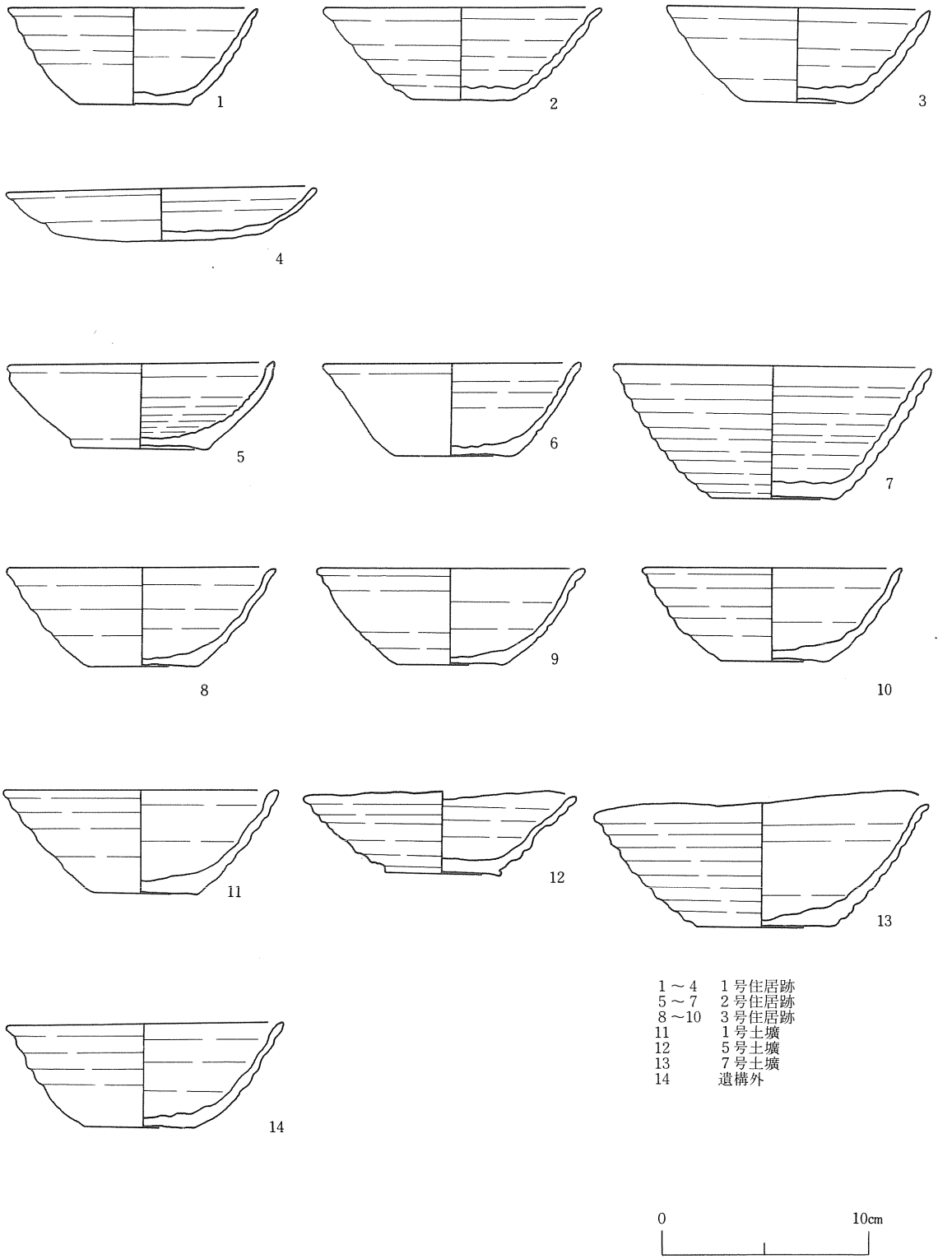
調査区の南部東端で検出された。

プランは径3.0 mの方形を呈する。確認面からの深さは40 cmで壁は斜めに立ち上がる。ピットは7個検出されているが主柱穴は不明である。カマドは東壁北寄りに付設されている。両袖部は壊れているが、袖に使用された礫が認められる。焚口、燃焼部は火熱を受け焼土が厚く、堅く堆積している。煙道は長さ85 cm、巾30～50 cm、深さ10 cmで焼土が認められる。床面は平坦で堅く良好である。

**出土遺物**

**土器**（第86図）

8～10は床面から出土した。いずれも回転糸切り無調整の赤褐色土器坏である。




第86図　遺構内・外出土土器

**土壙出土遺物**（第 86 図）

11は 1 号土壙、12は 5 号土壙、13は 7 号土壙から出土した。いずれも赤褐色土器坏で回転糸切り無調整である。12 ・ 13 は口縁部のつくりが雑で全体に「いびつ」である。

**遺構外出土遺物**（第 86 図）

14 は赤褐色土器坏である。回転糸切り無調整で、ゆるく内湾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。

## まとめ

### 遺構について

下堤 B 遺跡は、標高約 40 m の西側に広がる台地上に立地する。下堤遺跡は、昭和 43 年から 48 年まで調査が実施されており、本遺跡も昭和 47 年に範囲確認も含めて調査が行われ、竪穴住居跡 4 軒が検出されている。その後、黒土採取などの土取りが広範囲に行われ、東側は破壊されている。今回の調査では、遺構は西端部から検出され、縄文時代中期の竪穴住居跡、フラスコ状ピット、土壙、平安時代の竪穴住居跡、土壙が検出された。ここでは主に竪穴住居跡について簡単にまとめてみたい。

縄文時代中期の竪穴住居跡は総数 45 軒検出され、これまで調査が行われた同時代の遺跡の中では最も多い数である。平面形は、円形 14 軒、楕円形 25 軒、不整円形 1 軒、不整楕円形 2 軒、隅丸方形 1 軒である。規模は、最大の住居跡が長軸 8.5 m、短軸 7.8 m（37 号住居跡）、最小は径 2.3 m（13 号住居跡）と長軸 2.3 m、短軸 2.0 m（21 号住居跡）である。平均すると径 3 m～ 4 m 前後の住居跡が 20 軒と最も多い。床面積についてプランの不明な 45 号住居跡を除く 44 軒について算出したところ、最大面積を有するのは 37 号住居跡の 52 ㎡（約 15.8 坪）、最小は 21 号住居跡の 3.6 ㎡（約 1 坪）である。5 ㎡～ 15 ㎡の範囲に入る住居跡が最も多く、平均値をとると 13.35 ㎡（約 4 坪）である。炉は不明のもの 3 軒を除き 42 軒から検出されている。地床炉、土器埋設炉、石囲土器埋設炉、複式炉がある。内訳については下記のようである。

地床炉…… 11 号住居跡

土器埋設炉…… 38 号住居跡

石囲土器埋設炉…… 3 号 ・ 45 号住居跡

複式炉
- ①石囲土器埋設部＋堀り込み部……12号・18号・20号・29号・35号住居跡
- ②石囲土器埋設部＋石組掘り込み部……25号・37号・40号住居跡
- ③石囲土器埋設部＋石組堀り込み部＋掘り込み部……34号住居跡
- ④土器埋設部＋石組掘り込み部……10号住居跡
- ⑤土器埋設部＋掘り込み部…… 1 号 ・ 2 号 ・ 4 号～ 8 号・13号～15号・17号・22号・23号・26号～28号・30号～33号・36号・39号・41号～44号住居跡
- ⑥土器埋設部＋掘り込み部＋掘り込み部……18号住居跡

## 表1　住居跡一覧

| 住居番号 | 平面形 | 長軸(m) | 短軸(m) | 床面積(㎡) | 周溝 | 炉の構造 | 埋甕 | 時期 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 円形 | 3.4 | — | 9.1 | 無 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 有 | 大木10 | S47 S42J5 |
| 2 | 楕円形 | 3.9 | 3.4 | 10.1 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 3 | 楕円形 | 2.8 | 2.6 | 5.7 | 〃 | 石囲土器埋設炉 | 〃 | 〃 | |
| 4 | 楕円形 | 4.8 | 4.4 | 16.6 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 5 | 円形 | 6.2 | — | 30.2 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 6 | 円形 | 3.5 | — | 9.6 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 7 | 楕円形 | 2.9 | 2.5 | 5.7 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 8 | 円形 | 3.4 | — | 9.1 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 9 | 楕円形 | 3.4 | 2.9 | 7.7 | 〃 | — | — | — | |
| 10 | 円形 | 3.0 | — | 7.1 | 〃 | 土器埋設部＋石組掘り込み部 | 有 | 大木10 | |
| 11 | 楕円形 | 3.8 | 2.7 | 8.7 | 〃 | 地床炉 | — | 〃 | 覆土・床出土土器から |
| 12 | 円形 | 3.2 | — | 8.0 | 〃 | 石囲土器埋設部＋掘り込み部 | 有 | 〃 | 2号土壙に切られる |
| 13 | 円形 | 2.3 | — | 4.2 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 14 | 不整円形 | 3.3 | — | 8.5 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | S47 S33J10A・B |
| 15 | 円形 | 4.4 | — | 15.2 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 16 | 円形 | 2.6 | — | 5.3 | | — | — | 〃 | 9号土壙に切られる |
| 17 | 不整楕円形 | 6.5 | 6 | 30.6 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 有 | 〃 | 11号土壙に切られる |
| 18 | 楕円形 | 5.2 | 4.9 | 20.0 | 〃 | 石囲土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | | |
| 19 | 円形 | 4.5 | — | 15.9 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 20 | 円形 | 2.7 | — | 5.7 | 〃 | 石囲土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 21 | 楕円形 | 2.3 | 2.0 | 3.6 | 〃 | 土器埋設部＋……？ | 〃 | | 2・3号土壙に切られる |
| 22 | 楕円形 | 4.0 | 3.1 | 9.7 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | | |
| 23 | 楕円形 | 5.3 | 4.3 | 17.9 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | 拡張 |
| 24 | 不整楕円形 | 4.2 | 3.8 | 12.5 | 〃 | — | — | — | 26号住居跡に切られる |
| 25 | 楕円形 | 3.5 | …？ | 9.6 | 〃 | 石囲土器埋設部＋石組掘り込み部 | 有 | 大木10 | |
| 26 | 不整楕円形 | 4.5 | 3.8 | 13.4 | 有 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 27 | 楕円形 | 3.4 | 3.2 | 8.5 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 28 | 楕円形 | 4.9 | 4.6 | 17.7 | 〃 | 〃　〃 | 〃 | 〃 | |
| 29 | 隅丸方円 | 4.4 | 3.8 | 13.1 | 〃 | 石囲土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 30 | 楕円形 | 6.8 | 5.8 | 30.9 | 有 | 土器埋設部＋掘り込み部(Ⅲ期) | 〃 | 〃 | 拡張 |
| 31 | 楕円形 | 4.2 | 3.9 | 12.9 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 有(破片) | 〃 | |
| 32 | 楕円形 | 5.6 | 4.8 | 21.1 | 〃 | 〃　〃 | 有(破片) | 〃 | |
| 33 | 円形 | 8.0 | — | 50.2 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部（Ⅳ期） | 〃 | 〃 | 拡張 |
| 34 | 楕円形 | 3.9 | 3.3 | 10.1 | 〃 | 石囲土器埋設部＋石組掘り込み部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 35 | 楕円形 | 3.6 | 3.1 | 8.7 | 無 | 石囲土器埋設部＋掘り込み部 | 有(破片) | 大木10 | |
| 36 | 円形 | 2.9 | — | 6.6 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 有 | 〃 | |
| 37 | 楕円形 | 8.5 | 7.8 | 52.0 | 〃 | 石囲土器埋設部＋石組掘り込み部 | 〃 | 〃 | 拡張 |
| 38 | 楕円形 | 4.6 | 3.5 | 12.6 | 〃 | 土器埋設炉 | 〃 | 〃 | |
| 39 | 円形 | 2.7 | — | 5.7 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 40 | 楕円形 | 7.0 | 6.4 | 35.2 | 〃 | 石囲土器埋設部＋石組掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 41 | 楕円形 | 5.2 | 4.2 | 17.1 | 〃 | 土器埋設部＋掘り込み部 | 〃 | 〃 | |
| 42 | 楕円形 | 4.6 | 4.5 | 16.3 | 〃 | 〃　〃 | 有(破片) | 〃 | |
| 43 | 楕円形 | 3.1 | 2.7 | 6.6 | 〃 | 〃　〃 | 有 | 〃 | |
| 44 | 楕円形 | 3.3 | 2.8 | 7.3 | 〃 | 〃　〃 | 有(破片) | 〃 | |
| 45 | — | — | — | — | — | 石囲土器埋設炉 | 有 | 大木10 | 削平壁なし |

以上のように複式炉が圧倒的に多く、石囲土器埋設部／土器埋設部＋石組掘り込み部／掘り込み部＋掘り込み部の組み合せから構成されている。本遺跡では6タイプに分類でき⑤タイプが26軒と最も多い。

これまで計画地域内の下堤E遺跡(註1)、湯ノ沢D遺跡(註2)、坂の上E遺跡(註3)の調査では、同一住居内で複式炉→石囲炉、複式炉→石囲土器埋設炉、複式炉→土器埋設炉、土器埋設炉→石囲炉という変遷が小例ではあるが確認されている。本遺跡においても同一住居内における炉の作り替えが認められるが、上記のような変遷とは異なり、住居跡の拡張に伴ない炉の位置を移し替え、再構築するものである。住居跡の拡張が明確に認められるのは、23号・30号・33号・37号住居跡である。23号・37号住居跡は複式炉→複式炉、30号住居跡は土器埋設炉→複式炉、33号住居跡は複式炉→土器埋設炉→複式炉というように炉の移築が行われ、最も新しい時期に住居規模を拡張し、一回り大きくした壁に掘り込み部が接するようになり、柱穴も新らしく掘り込まれ壁際を周っている。このような形の拡張は地方遺跡(註4)の1号・2号住居跡でも確認されている。

この時期の集落では、住居跡間に切り合い関係がほとんどないのが特徴であり、一時期の住居軒数を把握するのが困難である。本遺跡では45軒検出した住居跡で切り合い間係にあるものが三組確認されている。このことから少なくとも二時期の変遷が考えられる。

時期については、炉埋設土器を決定の根拠とするならば、沈線区画の磨消帯で文様が施される深鉢形土器が主体であり、縄文時代中期未葉大木10式期に位置づけられる。

遺跡の南東部から平安時代の竪穴住居跡3軒、土壙が検出されている。住居跡は、いずれも東壁にカマドを付設し、一辺が約3m前後で主軸方向も同様のものである。土壙は11基検出されている。1号～4号土壙は覆土、壙底、側面に焼土、炭化物が多く認められ、火熱を受けている。火を使用した施設と考えられるが詳細は不明である。北東300～400mには同時代の下堤A、C遺跡があり、A遺跡から4軒、C遺跡から31軒の住居跡が検出されている。周辺遺跡では、坂の上F遺跡(註5)2軒、湯ノ沢B遺跡(註6)1軒、野形遺跡(註7)3軒、深田沢遺跡(註8)6軒（うちカマドのないもの2軒)、下堤D遺跡(註9)3軒が検出されている。下堤C遺跡(註10)が圧倒的に多く同時代の中心的な集落として考えるならば、隣接する下堤A、B遺跡の住居跡のあり方は分村的な性格が考えられる。

**遺物について**

下堤B遺跡からは縄文時代中期の土器・石器・土製品・石製品、平安時代の土器などが出土している。ここでは土器について簡単に触れてみたい。

縄文時代中期の土器は、遺跡の北側が削平されており、遺構外から出土した土器は少なく、大部分は住居跡覆土出土の土器片、炉埋設土器である。器種は深鉢が多く、鉢、台坏鉢、器台などがある。文様は沈線区画の磨消帯で施されるものが主体である。口縁部が磨消無文帯で頸部から胴部にかけ「J」、「S」字状文、波状文、クランク状の文様が展開し、また、付随して円・楕円区画内や沈線に沿い刺突文が配される土器もみられる。これらの土器は縄文時代中期末葉の大木10式土器として位置づけられているものである。

平安時代の土器は、須恵器坏、赤褐色土器坏、甕がある。須恵器坏は底部切り離しが、回転ヘラ切り無調整1点、回転糸切り無調整3点である。赤褐色土器坏は10点すべて回転糸切り無調整である。隣接する下堤C遺跡でも同様の土器が多数出土することからほぼ同時期と思われる。赤褐色土器坏はすべて回転糸切り無調整であり9世紀中半から10世紀頃の年代が考えられる。

註1.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤E遺跡」秋田市教育委員会 1985

註2.「下堤D遺跡発掘調査報告」秋田市教育委員会　1982

註3.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上E遺跡」秋田市教育委員会　1984

註4.「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　地方遺跡」秋田市教育委員会 1987

註5.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　坂ノ上F遺跡」秋田市教育委員会　1985

註6.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　湯ノ沢B遺跡」秋田市教育委員会　1983

註7.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　野形遺跡」秋田市教育委員会 1984

註8.「秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書　深田沢遺跡」秋田市教育委員会 1985

註9.註2と同じ

註10.「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書　下堤C遺跡」秋田市教育委員会　1987

## 参　考　文　献


秋田市教育委員会:「小阿地下堤遺跡・坂ノ上遺跡発掘調査報告書」 1976

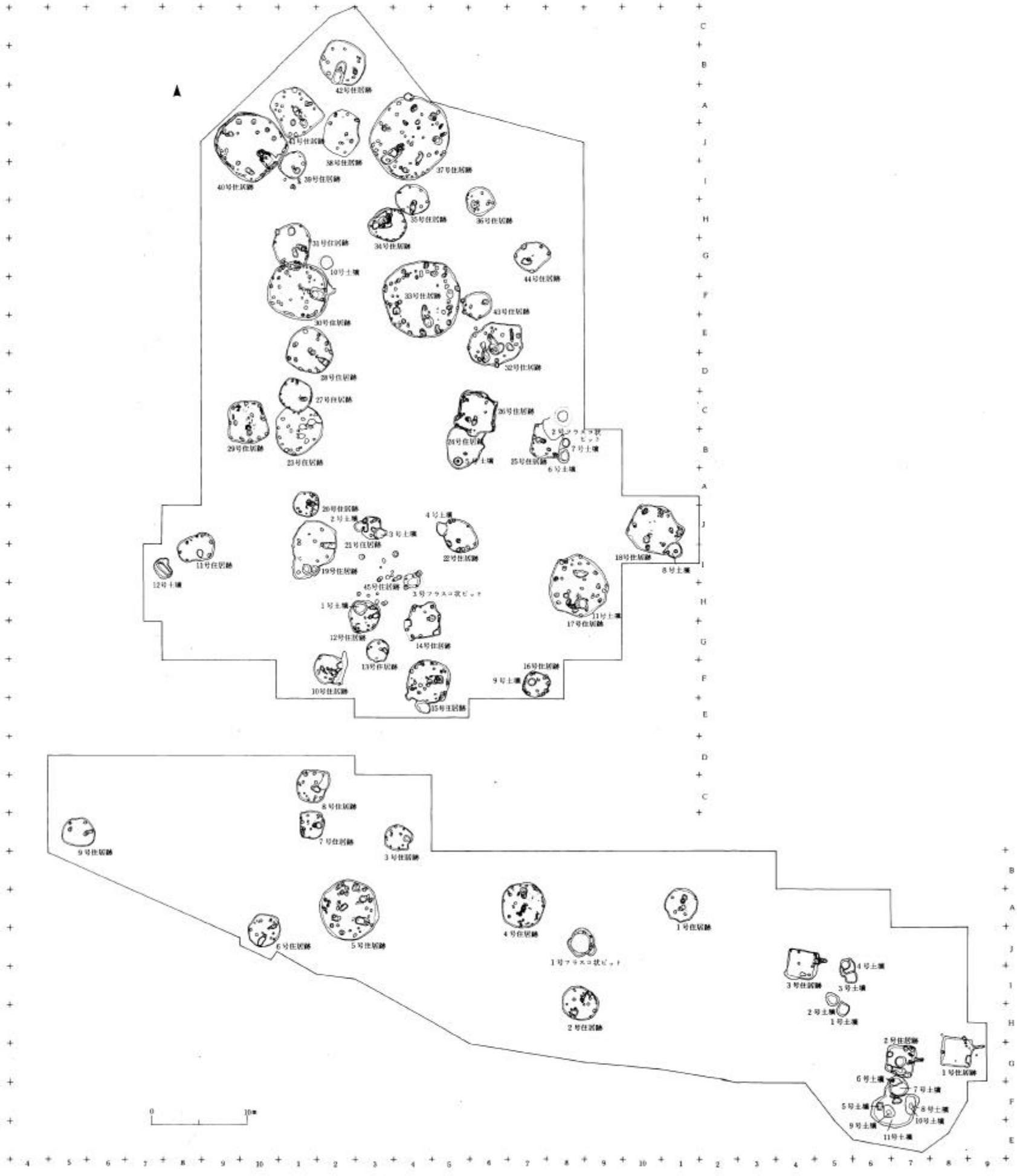
秋田県教育委員会:「内村遺跡発掘調査報告書」秋田県文化財調査報告書第92集　1981

秋田県埋蔵文化財センター:「内村遺跡出土土器と住居群の変遷」小林　克　研究紀要第3号　1988

芹沢長介　坪井清足他:「縄文土器大成　第2巻中期」 講談社　1981

目黒吉明:「住居の炉」縄文文化の研究8社会・文化　雄山閣出版　1982

中村良幸:「『複式炉』について―岩手県を中心として―」考古風土記第7号　1982


42号住居跡
41号住居跡
38号住居跡
37号住居跡
40号住居跡
39号住居跡
35号住居跡
36号住居跡
34号住居跡
31号住居跡
10号土壙
44号住居跡
33号住居跡
43号住居跡
30号住居跡
32号住居跡
28号住居跡
27号住居跡
26号住居跡
29号住居跡
23号住居跡
24号住居跡
5号土壙
25号住居跡
7号土壙
6号土壙
20号住居跡
2号土壙
3号土壙
4号土壙
21号住居跡
22号住居跡
18号住居跡
8号土壙
11号住居跡
12号土壙
19号住居跡
45号住居跡
1号フラスコ状ピット
1号土壙
12号住居跡
14号住居跡
11号土壙
17号住居跡
13号住居跡
16号住居跡
9号土壙
10号住居跡
15号住居跡
8号住居跡
7号住居跡
3号住居跡
9号住居跡
6号住居跡
5号住居跡
4号住居跡
1号住居跡
1号フラスコ状ピット
2号住居跡
3号住居跡
4号土壙
3号土壙
2号土壙
1号土壙
2号住居跡
1号住居跡
6号土壙
7号土壙
5号土壙
8号土壙
9号土壙
10号土壙
11号土壙
0
10m

第87図　遺構配置図

下堤Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡航空写真（北西→）

下堤Ｂ遺跡航空写真（北西→）

**図版１**

1号住居跡（北→）

2号住居跡（東→）

図版2

3号住居跡（南西→）

4号住居跡（北→）

**図版 3**

5号住居跡（東→）

6号住居跡（北→）

**図版 4**

7号住居跡（東→）

8号住居跡（東南→）

**図版5**

9号住居跡（東→）

10号住居跡（東→）

**図版 6**

11号住居跡（南→）

12号住居跡（東→）

図版 7

13号住居跡（南→）

14号住居跡（東→）

**図版 8**

15号住居跡（東→）

16号住居跡（西→）

図版 9

17号住居跡（南西→）

18号住居跡（南西→）

**図版10**

19号住居跡（東→）

20号住居跡（東→）

図版11